

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

①男もすなる日記といふものを女もしてみむとてするなり。
 その年の師走の二十日あまり一日の日の戌の時に門出す。
 そのよし、いささかにものに書きつく。

②ある人、県の四年五年果てて、例のことも皆し終へて、
 解由など取りて、住む館より出でて、船に乗るべき所へ渡る。
 かれこれ、知る知らぬ、送りす。年ごろ、よく比べつる人々
 ④なむ、別れがたく思ひて、日しきりにとかくしつつののしる
 うちに夜ふけ⑤ぬ。

二十二日に「和泉の国まで。」と平らかに願立つ。藤原のと
 きぎね、⑥船路なれど馬のはなむけす。上中下酔ひ飽きて、⑦い
 とあやしく潮海のほとりにてあざれ合へり。

(1) — ①について、次の各問に答えなさい。

(a) サ変動詞「す」の活用形を全て抜き出しなさい。また、
 それぞれの活用形も答えなさい。

(b) 「なる」と「なり」の違いを文法的に説明しなさい。

(c) — ①全体を口語訳しなさい。

(2) — ②は具体的に誰か、答えなさい。

(3) — ③と⑤の「ぬ」の違いを文法的に説明しなさい。

(4) — ④の「なむ」は係助詞であるが、結びの言葉は消滅し
 ている。このことを何というか、答えなさい。

(5) — ⑥にこめられているしやれを説明しなさい。

(6) — ⑦にこめられているしやれを説明しなさい。

高校古典

土佐日記「門出」(文法・読解)

解答

(1) (a) す・終止形 し・連用形 する・連体形

(b) 「なる」は伝聞の助動詞「なり」の連体形で、「なり」は断定
 の助動詞「なり」の終止形。

(c) 男も書くという日記というものを、女の私も書いてみようと思
 って書くのである。

(2) 筆者(紀貫之)

(3) ③の「ぬ」は打消の助動詞「ず」の連体形で、⑤の「ぬ」は完了の
 助動詞「ぬ」の終止形。

(4) 結びの流れ

(5) 馬に乗らない船旅なのに、「馬のはなむけ」をするというしやれ。

(6) 「あざる」に腐敗するの意とぶざけるの意を掛けて、防腐の塩気で
 「あざる(腐る)」「はずがないのに」、「あざれ(ぶざけ)」「あっている
 というしやれ。